

「行きたい学校」をめざして

中広川小学校長 中村 裕明

四月七日、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一回目の緊急事態宣言が出され四月八日から約二ヶ月間の臨時休校となりました。そして、あつという間に令和二年度も終わりを迎えました。子供たちは新しい学校生活様式のもと、元気に頑張っています。様々な行事等が中止になったり、教育活動にも様々な制限があつたり、まだまだ厳しい状況は続いています。子供たち一人一人が安心して生き生きと楽しい学校生活を送れるよう、「行きたい学校」をめざし全力で指導しています。

「郷土を愛し、たくましく生き抜く力を持った子供の育成」という学校教育目標のもと、本年度の重点的目標を次のように設定し日々の教育活動に取り組んできました。

友達と協力して主体的に

課題解決できる子供

この重点目標を達成するために本年度も子供たちに対しては、「学習に集中」「笑顔いっぱい」「体を鍛える」という三つのめざす姿を提示し、子供たちが常に意識できるようにしてきました。

この三つの姿から本年度の取り組みを振り返りたいと思います。

まず、一つ目の「学習に集中」です。

評価指標の一つとして「授業が分かったと実感できる児童の育成」としていました。「わかる授業づくり」を中心に、少人数や習熟度別学習や個別の指導にも力を入れてきました。学校生活アンケートで94%の子供達が「算数の学習が『分かる』ようになった。」と答えています。これからも学習の振り返りを大切に、子供たち一人一人が学習に集中して取り組み自信を持って「分かった」と言える授業づくりを行っていきます。

次に二つ目の「笑顔いっぱい」です。

子供たちへのアンケート結果から「友達の良いところを見つけたことができましたか」という質問に対しては91%、「友達に

優しく接したり、優しい言葉かけをしたりできましたか」という質問には、90%の子供ができたと答えています。密接や密集を防ぐと共に常にマスクをつけた状態の中、お互いの気持ちを伝えにくい状況ですが、おおむね良好な結果となりました。学年の異なる子供達がペアをつくり距離を保ちながら校内でウォークラリーを行った「中広ウォーク2020」や各学級や学年での丁寧な指導が有効に働いたと考えられます。まだまだ行事等については制限がありますが、そのような状況でも子供達の繋がりを深められるよう、さらに内容や方法を工夫していきたいと考えています。

また、挨拶に関する内容ではすべての項目で90%を超える達成率でした。感染防止のため大きな声を出しての挨拶はできませんが、目と目を合わせて心を込めた挨拶を続けてほしいと思っています。

最後に、「体を鍛える」です。

臨時休校が続いたため一学期は全学年で基礎体力を回復させるための「体づくりの運動」を体育学習の中心としました。二学期からは密接を防ぎながらボールゲームや器械運動等にも取り組んできました。「運動などのめあてを決めて、進んで取り組むことができましたか」という質問には95%の子供ができたと答えています。様々な制限はありますが、友達と一緒に楽しく健やかな体づくりに取り組んでほしいと思っています。

子供たちは日々確実に成長しています。この成長は学校と家庭・地域が一緒になって取り組んだからこそ得られるものです。豊かな心は豊かな繋がりの中で育まれると言われています。学校・家庭・地域の繋がりをさらに豊かなものとしていきたいと考えています。これからも保護者・地域の皆様のご支援とご協力をお願いします。

「行きたい学校」



豊かなつながりが  
豊かな心・頭・体を育む

「帰りたい家庭」

「住みたい広川町」